



6/9 (土) 美術愛で20周年、 浦添市美術館友の会

NPO法人浦添市美術館友の会は、6月5日(火)から6日間の日程でサークル作品展を開催しました。

友の会は、美術が好きなもの同士の親睦を深めようと生まれ、誰もが美術に慣れ親しんでもらえるよう絵画教室や鑑賞会など精力的に活動し、今年で20年の節目を迎えました。

会場となった美術館では絵画、漆芸、写真や人形など様々な作品が並び、会員の皆さんが来場した人びとに日頃の活動の成果を発表しました。友の会の宮平ユリ子事務局長は「20回目の展示会は友の会の成人式で新たな門出です。これからも様々な活動を通して美術を愛する心を広めていきたい」と話しました。



5/30(水) 地域のために、献身的に 取り組んだ自治会長へ感謝状

長年、浦添市のためにご尽力された永年勤続者3人と退任者6人の自治会長のみなさんに松本市長から感謝状が贈呈されました。

約25年間自治会長を務めた広栄自治会の比嘉勝昭さんは、「振り返れば、就任当初は市役所も旧庁舎で、毎週熱い中事務連絡会議をしていた。数えきれないほどの思い出があり、感謝と懐かしい気持ちでいっぱいです。今後も元気なうちは色んな活動に関わっていきたい」と目を潤ませながらあいさつをしました。会場からは8人の贈呈者へ温かい拍手が送られました。



6/13(水) 陶芸でゆんたく地域交流

浦添市美術館で大平特別支援学校中学部の生徒と美術館陶芸サークル「ゆんたくシーサー」との陶芸交流会が開かれました。この交流会は、生徒たちが人との関わりを持ち、地域での社会参加につなげることを目的に行われています。生徒たちはサークルの先生とゆんたくしながら、お皿や小物入れ、戦隊ヒーローなどいろいろな陶芸づくりを楽しみました。お皿づくりにチャレンジしていた石井海大さんは「僕とお母さんの分のお皿を作って一緒にカレーを食べる」と夢中になっていました。

作品は、11月30日(金)から12月9日(金)の間、美術館で展示されます。



6/12(火) あいさつの輪をひろげよう

「愛の声かけ運動」が、内間交差点を拠点に市内全域で行われました。平成13年から取り組んでいるこの運動は、青少年が思いやりとやさしさをもち、心身ともに明るくたくましく成長してほしいという願いから始まり、内間小学校や神森中学校、浦添高校、浦添工業高校の生徒をはじめとするたくさんの団体が参加しました。

浦添高校1年空手部のみなさんは「普段やっているあいさつを大勢でやることによって、楽しさを見出せました。あいさつすることにもっと関心を持てるようになりました」と元気に感想を述べ、会場には笑顔あふれるあいさつが響いていました。



6/10(日) みんなで作ろう、素敵うらそえ

各自治会が主体となって取り組む環境美化活動である「グリーンデーINうらそえ」が行われました。

西原自治会一区・二区では、剪定サークルとわくわくサークル(花植え)の会員のみなさんが中心となり、朝早くから活動に取り組みました。西原一区自治会長の久松真さんは「台風の影響も心配でしたが、無事作業が出来て良かった。一人一人の取り組む意識が高く、役割分担なども自ら動き、協力してくれたのでありがたい」とチームワークの良さが地域活性化につながることを嬉しそうに話してくれました。



5/29(火) 県内初の発達障がい複合施設 建設へ

乳幼児から成人まで、発達障がいなどのある人を一貫して支援するための複合施設の建設が発表されました。

県内初となるこの施設は、発達障がいやその可能性のある児童と保護者が一緒に通える親子通園型の療育のほか、さまざまな障がいのある人の相談、学習支援、就労支援など自立した生活を営むためのサポートをする拠点となります。

浦添市身体障がい者福祉協会の宮城明美副会長は「障害者手帳を持っていない人もサービスが受けられる。障がい者がよりよく生活できるようになると思うので嬉しい」と話しました。施設は平成32年の供用開始を目指します。



5/23(水) 地域で見守り、万引き防止

青少年市民会議主催で浦添警察署と各自治体や小中学校、企業関係者による万引き防止対策会議が行われました。今年の万引き件数は増加傾向にあり、対応の強化について話し合われました。

沖縄国際大学名誉教授の山入端洋由氏は「ただ単に犯罪ということで片付けるのではなく、子どもたちが万引きを犯してしまう心理や要因について考えることが重要」と話しました。講話後は地域ごとのテーブルに分かれて万引きの未然防止のために、何をすべきか意見・情報の交換を行い、「店舗、学校、保護者、地域等で情報共有し、連携することが大切」と再確認しました。